

ここまでのまとめ

今ある公共施設を全て残すことは**非常に難しい**状況です

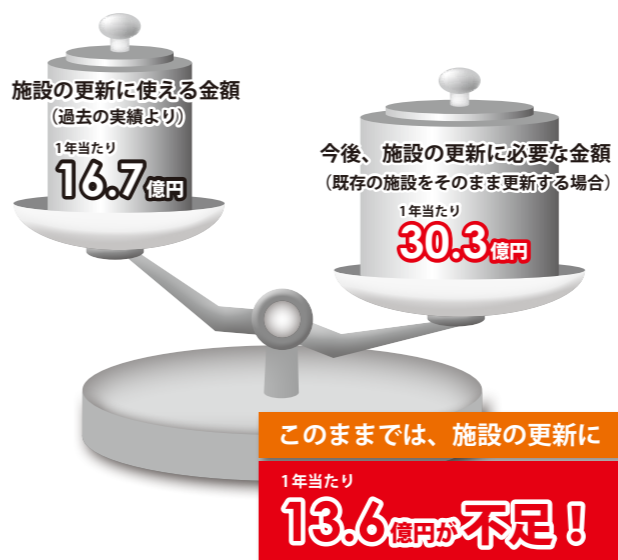
今ある公共施設を将来にわたって残す場合、
市の他のサービス（公共施設以外の行政サービス）の
維持・向上にも**影響が及びます**

借金をして施設を整備することは可能ですが、
その**負担**を子や孫など**将来世代に残す**ことになります

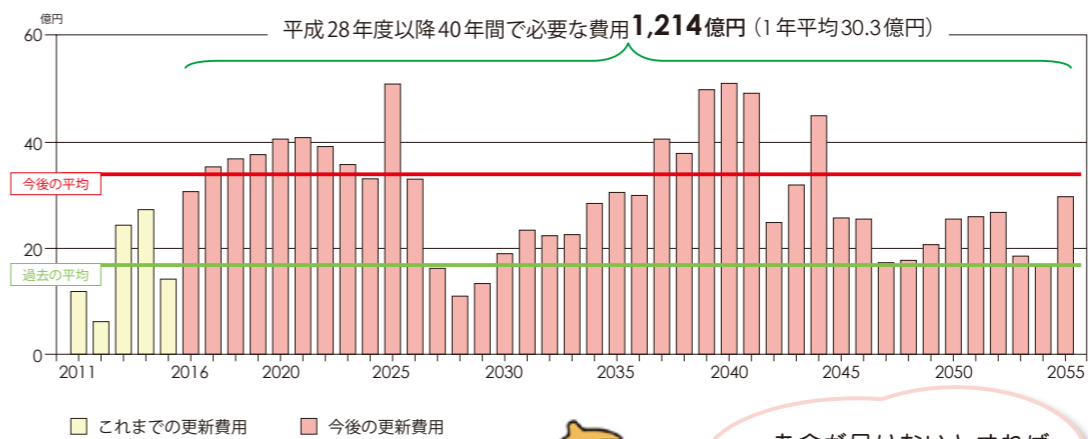
改修や建替をするには多くのお金が必要です

今ある施設を全て建替や大規模改修した場合の費用を試算したところ、1年当たり30・3億円が必要になります。市がこれまで更新に使ってきた費用は1年当たり16・7億円ですので、全て残すためには、現在の2倍近い費用（市民1人あたり年間4万円の追加負担）が必要になると見込まれます。

また、市全体の財政状況を見ると、市税や国からの仕送り（地方交付税）などの収入は減っていく一方で、社会保障費や借金の返済（公債費）などの支出は増えていくと見込まれ、財政状況は厳しさを増していきます。



■ グラフ③ 更新（改修・建替）に必要な費用の推計



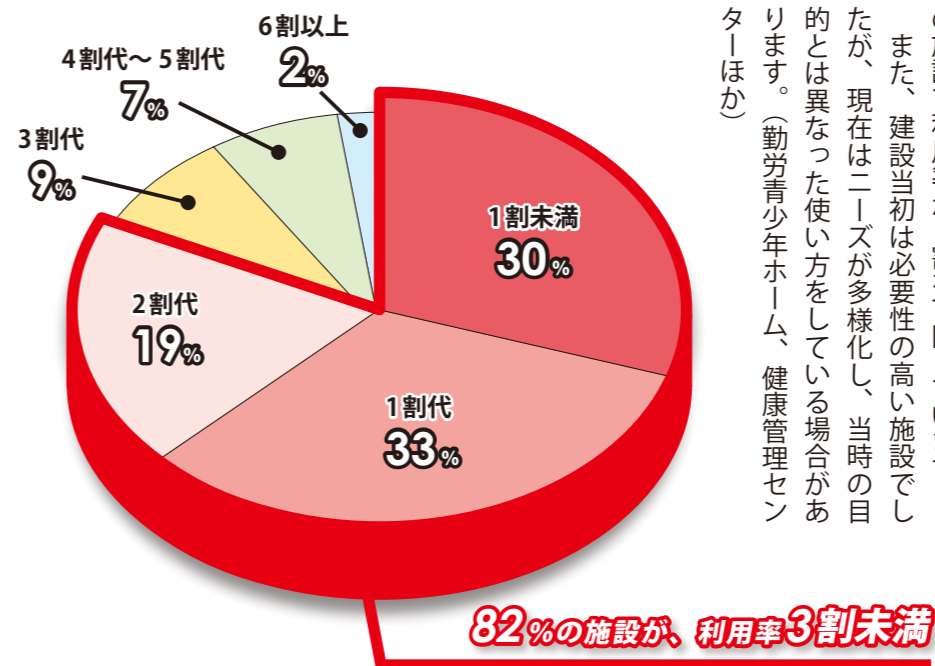
つまり、全ての施設を今のまま残すことは、「非常に難しい」と言わざるを得ません。

お金が足りないとすれば、本当に必要な施設を選んでいくことが大事になるね

同じような施設がたくさんあり、しかも十分に使い切れていない施設があります

これまでは、施設を建設するとき、目的別、対象者別に、それぞれの施設を整備してきました。その結果、市民の皆さんが利用できる施設はたくさん設置されてきましたが、各施設の利用状況を見ると、ほとんどの施設で利用率が3割を下回っています。また、建設当初は必要性の高い施設でしたが、現在はニーズが多様化し、当時の目的とは異なった使い方をしている場合があります。（勤労青少年ホーム、健康管理センターほか）

■ グラフ④ 利用率調べ



chapter 2

これから どうするの？

施設再編の考え方

このような厳しい状況を踏まえ、市では社会環境の変化に対応した公共サービスの提供と、公共施設の見直しによる将来負担の軽減を図るため、その基本方針（湯沢市公共施設等総合管理計画）を定めています。

公共施設の未来を考えると、単に特定の施設を「存続」するか「廃止」するかを決め、やみくもに施設の数や減らすということではなく、将来のまちの「あるべき姿」を考え、地域性や時代のニーズを把握した上で、公共施設全体をどうしていくかという視点が重要となります。

具体的には、次の考え方を基本として、施設のあり方を検討していきます。

公共施設の配置や数量を、身の丈に合った状態に見直します

他施設との複合化など新たな手法を取り入れながら、施設の配置や数量を適正な状態にして財政負担を縮減します。

施設は見直しても、市民サービスが低下しないように、代替案を確保します

「施設」は見直しても、施設の中で行っている「サービス（機能）」の低下がないように、他の施設で実施するなど、代替案を確保します。

地域全体を見渡して、施設が有効に活用されるように、配置のあり方を検討します

地域に設置されている個々の施設を「点」で見るとはなく、地域全体を「面的」に見て、類似の施設や機能がある場合は、その内容などを点検し、施設が有効に使われるように見直します。

民間のノウハウを最大限に活用します

施設の整備や管理運営、余剰スペースの活用など、民間と協力して行うことで、サービスが向上したり、経費を節約できる場合があります。民間活用を積極的に進めます。